Okuyama Conservation National Trust Newsletter

トラストだより 30号

公益財団法人 奥山保全トラスト会報 VOL. 30 ／ 2024.4.26

三重県大台町池ノ谷トラスト地　調査杭のすぐそばに堆積する流木　（408ha 2023年 9月 28日撮影）

花の盛りも過ぎて、吹く風もやわらかな季節となりました。新年度を迎え、皆様におかれましては健やかにお過ごしのことと、お慶び申し上げます。三重県大台町池ノ谷トラスト地には、県の天然記念物に指定される「モリアオガエルの繁殖池」があります。この池が、洪水による土砂流入によって埋まっていくという事態を受けて、2019年に堰堤を設置。しかし、昨年同トラスト地を襲った台風により、人工林にあった伐採木が流され、堰堤や調査杭の一部が破損し、池周辺の植樹地にも押し寄せました。春の訪れを待たずに、地元のボランティアの方々が流木の撤去などを行ってくださっています。来る日も来る日も丸太を切り、搬出するという大変な作業です。土砂の流入が、自然なことならば、私たちも自然の経過に任せたいと思います。しかし、その原因は過去に上流で雑木林を伐採し、スギの植林を行ったために、強い雨の際は表流水が発生し、土砂が池に流入するようになったためと考えられます。豪雨の発生は防げないものの、それに伴う土砂流入は「人災」である可能性がある。そうであるならば、当財団は責任をもって、土砂流入を防ぎ、モリアオガエルの繁殖池を守りたいと強く思っています。まだ、堰堤先端と上流に丸太が残っており、洪水で流出する可能性もあります。トラスト地を守るために心血を注いで活動に携わってくださる方々に心より感謝申し上げますとともに、今後も地元のボランティアの方々とともに、調査、作業を続けて参ります。

当財団の活動にご賛同いただき、支えてくださる会員様を募集しています。
活動を広げていくために、ご支援・ご寄附をお願い申し上げます。

https://www.okuyama-trust.org/ ご入会 - ご寄附 /

※太字部分は日本語入力です。

QRコードはこちら→

財団所有トラスト地　全国 22 か所
合計面積 2,535ha

～森を守り、水を守り、命を守る～ 公益財団法人奥山保全トラスト
〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町 1-4 熊森ビル 3 階 電話・FAX 0798-34-0980

トラストだより VOL30

兵庫県宍粟市
渡邊土乃武自然保護区
戸倉トラスト地

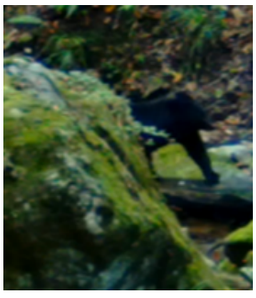
植樹木を保護するためのネット内で下草が繁茂するがネット外は裸地が広がる（2023 年 6 月）

自動撮影カメラで判別した動物と撮影回数

2023年8月~11月　10ヶ所合計

クマ	7	ハクビシン	7
シカ	725	ネズミ	5
イノシシ	42	コウモリ	8
タヌキ	10	イタチ	3
アナグマ	5	キツネ	1

自動撮影カメラに写ったクマとシカ



2006 年に購入した兵庫県宍粟市戸倉トラスト地（120ha）は、大半が原生的な天然林ですが、12ha が人工林だったため、2011 年から広葉樹林化を進めています。急斜面であり、冬は大雪、かつシカの生息地という広葉樹林化には非常に厳しい条件のため、試行錯誤しながら植樹や間伐などを続けています。一方、原生的な天然林でもここ数年下草が減少しています。様々な原因が考えられますが、まずはシカが入り込んでいること、次に奥山の開発や気候変動により、野生動物の生息域が変わったり、植物には耐えがたい夏の酷暑であったり、簡単には解決できない問題ばかりです。難しい局面の戸倉トラスト地ですが、野生動物の生息地として大切な場所であることがわかりました。

広葉樹林化と並行して行っている、自動撮影カメラを使った野生動物の生息状況調査で、2023 年度は 8 月から 11 月の間、主に渓流沿い10 地点にカメラを設置したところ、なんと累計 1922 回も野生動物が撮影されました。クマをはじめ、シカ、イノシシ、タヌキ、ネズミなどのたくさんの動物が写っていたのです。このトラスト地に住む生き物たちのためにも、広葉樹林化への道を引き続き模索し、豊かな水源の森として維持するためにできることを、考え続けて参ります。

大前 繁雄 理事 ご勇退

奥山保全トラスト設立以来、理事として多大なご支援をしてくださった大前繁雄理事がご勇退されました。現役国会議員の時から野生動物へ思いを寄せ、奥山を守る重要性を理解してくださいました。人にも動物にも心を寄せる大前理事の姿勢は、命を守る活動を行う私たちにとって大きな支えとなりました。これまでのご支援に感謝するとともに、大前理事の生き物への想いを引き継ぎ、命溢れる豊かな森を保全して参ります。

今後は名誉顧問としてご指導いただく予定です。

理事 大前 繁雄様（元衆議院議員）

奥山保全トラストの創立以来お世話になりましたが、理事を退任させて頂くことになりました。満 82 歳という年齢的な問題もありますが、昨年 1 年間、おそらくコロナの後遺症と思われる、理由の分からない病にかかり苦しんだことが一番の理由です。 昨今の熊によるヒトの生活圏出没多発問題を解決するためには、奥山保全トラストのようなトラスト団体の拡大が何より大切です。理事を退任いたしましても引き続き「奥山トラスト」や「熊森」の発展のため尽力する所存ですので宜しくお願いいたします。